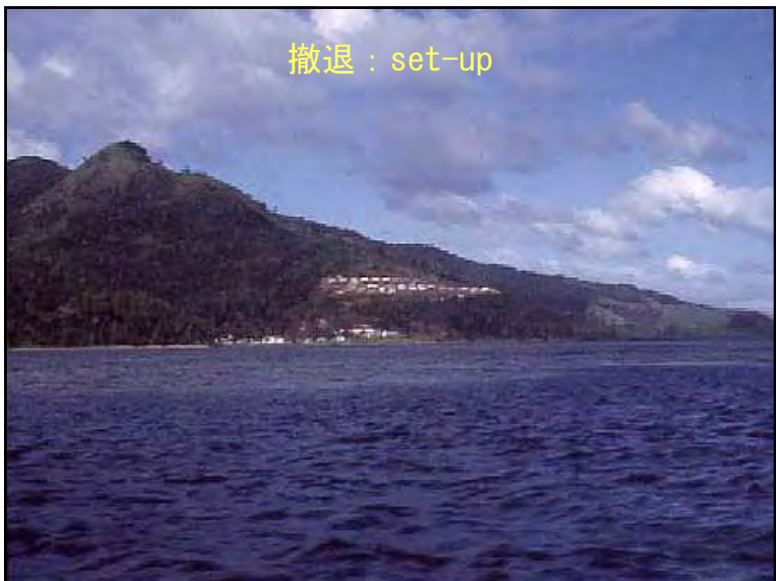




コミュニティレベルの対応策



撤退：set-back



撤退：set-up

4. 今後の課題

1. わが国の課題

- ・ 既に影響は出ており、自動的適応も始まっている
 - 影響のモニタリング
- ・ 詳細な影響予測の強化(気候予測+影響予測)
- ・ 影響は国土全体に及ぶ
 - 経済的・効率的な適応技術の開発
- ・ 将来にわたる安全・安心な国土と地域作りの課題
- ・ 主要な政策の中に気候変動への対応を組み込む(Mainstreaming)

2. 途上国支援に関する課題

- ・ 多くの途上国は、現在でも脆弱
 - 現在の脆弱性の克服による気候変動への対応力の強化
 - Win-Win政策
- ・ 社会全体やコミュニティの対応力を強化する視点が重要
- ・ Good Practice を生み出すPilot Projectの実施
- ・ 途上国自身の手で問題解決する力をつけるための支援
 - 能力形成・人材育成
- ・ 科学技術外交の柱の一つ

適応力の要因

要因	内容
資源	資金や設備など利用可能な資源の量
人的資源	技能、経験、教育レベルなどを含む人的能力
知識・認識	環境変化・影響の出現を感知し、その意味合いを理解するための基礎的知識
情報管理	影響と適応に関する情報へのアクセス、その処理・解釈のための個人及び集団的能力
技術	適応技術の利用能力および必要な技術情報にアクセスする能力
社会制度	情報アクセスや適応のための環境整備、意志決定を援護するための社会的な制度の整備状況
共同体	所属する社会集団において、共同で悪影響を克服するためのコミュニティ・ネットワーク
リスク管理	関係者の間でリスクを共有し分散する仕組み・能力

<参考> 国連総会における気候変動テーマ別討論(7/31-8/1) 今後の国際的取り組みの考え方に関する 英国Stern博士の提案

1. 目標

- 1) 全ての国が参加して2050年までに最低50%排出削減
- 2) そのため先進国がより大きな削減義務を負う。
例えば、2050年までに75%削減。
- 3) 中間時点の目標を持つ。例えば、2020年に20~30%削減

2. 緩和策(Mitigation)

- 1) 世界のカーボン市場を開設し、CDMを越える方策を検討。
CDMの実施しやすさと透明性を改善する。
- 2) エネルギー分野などの技術開発に一層の投資
- 3) 森林伐採をこれ以上進めないための政策枠組みを確立

3. 適応策(Adaptation)

- 1) 科学的な予測能力の向上が必要
- 2) 適応策に資金投入(先進国、途上国両方)
- 3) 適応技術の開発

4. 政治のリーダーシップ(Political will)

- 1) 温暖化対策と経済成長の同時達成をめざす
- 2) 各国のトップ(首相、大統領)がリーダーシップを発揮する
- 3) 国民一人一人の認識の高まり。世論の後押しが必要